

JOT



Corporate Social Responsibility

社会とともに発展を遂げる企業であるために

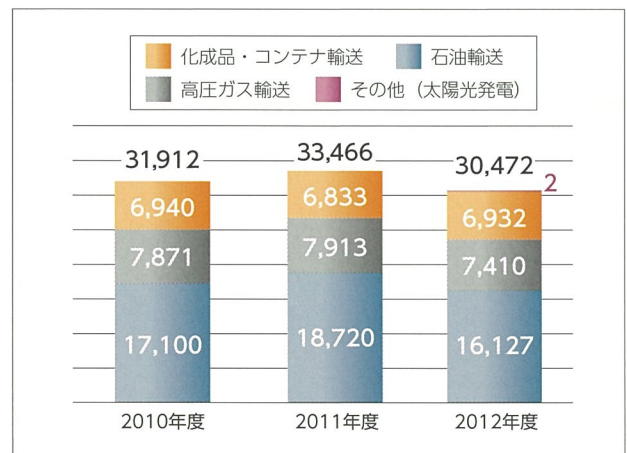
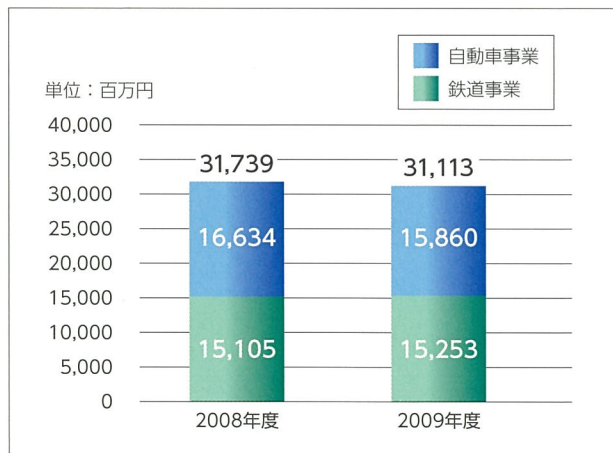
CSR報告書 2013

社名	日本石油輸送株式会社 Japan Oil Transportation Co.,Ltd.
所在地	東京都品川区大崎一丁目11番1号
設立	1946年3月27日
資本金	16億61百万円
社員数	166名(2013年3月31日現在)
事業内容	ガソリン・灯油等の石油製品の鉄道タンク車、自動車輸送 LNG(液化天然ガス)等の高圧ガスの鉄道コンテナ輸送、自動車輸送 石油化学製品等の鉄道コンテナ輸送、自動車輸送および各種コンテナのリース 鉄道用冷蔵・冷凍コンテナ等のレンタル・リース 太陽光発電事業
グループ会社	株式会社エネックス、近畿石油輸送株式会社、株式会社ニチュ、株式会社ニュージェイズ、株式会社JKトランス

CONTENTS

- 01 会社概要
- 02 トップメッセージ
- 03 特集
安心して暮らせる社会の実現に向け
太陽の恵みを次世代に
- 05 日本石油輸送のCSR
- 06 目標と実績
- 07 コンプライアンス
- 08 品質管理
- 09 安全
- 11 環境保全
- 13 人間尊重
- 14 社会貢献

財務ハイライト 連結売上高推移



● 編集方針

「CSR報告書2013」は、JOT(日本石油輸送)グループを支えてくださっているステークホルダーの皆様に、JOTグループが取り組んでいる様々なCSR活動を広く発信することを目的に発行しています。

特集では、今年度より事業化しました太陽光発電事業について取り上げました。

また、後半部分では、JOTグループのCSR推進テーマの項目に基づき、各活動の考え方、実績、取り組み内容事例について報告しています。

● 対象期間

原則として、2012年4月1日から2013年3月31日までを対象期間としていますが、一部、2013年4月以降の内容も含んでいます。

● 対象範囲

日本石油輸送株式会社およびグループ会社5社(全体で「JOTグループ」と表現しています。)

● 発行時期

2013年6月(前回発行:2012年7月)

皆様から信頼される企業グループであり続けるために CSR活動を実践してまいります。

日本石油輸送は、1946年の創業以来、石油、化学製品、生鮮食料品、LNG（液化天然ガス）など、皆様の生活に欠かせない物資を運び続けてきました。

しかし、ただ単に運べばよいと考えてきたわけではありません。

私たちは「企業は単に利潤を追求するだけでなく、業務を通して社会に奉仕するという高い理想を掲げるべきであり、そうした経営理念に支えられた企業のみが社会での存立の基盤を与えられ、発展を許される」という考えをもって、創業間もない1952年に社是「奉仕こそ我が務め」を制定しました。

この社是は私たちのCSRの精神そのものであり、この精神とともに私たちは社会と共に発展を遂げてまいりました。

そして、2011年に迎えた創立65周年を機に、JOT（日本石油輸送）グループが目指すべき“道しるべ”として、社是をさらに具体化した「JOTグループ・ミッション」を制定しました。

その中で安全、フェア、信頼、チャレンジ、ハーモニーという5つのミッションを掲げています。

私たちJOTグループの全員がミッションの理念を共有し、事業活動を進める中で、これらのミッションの実現を通じて、ステークホルダー（関わり合うすべての方々）との信頼関係を構築することこそが、JOTグループのCSRであり、企業が存在する意義だと考えております。

奇しくも、この「JOTグループ・ミッション」を制定した直後、東日本大震災が発生いたしました。

私たちは、地震発生直後から、日本海側を經由した被災地への石油列車の運行やタンクローリーの応援輸送に携わりました。

こうした取り組みを通じて、改めて私たちの本業が、皆様の生活を支えるライフラインであり、事業活動を通じた社会への貢献、企業の存在意義について再確認いたしました。



日本石油輸送株式会社
代表取締役社長

森田 公生

これからも、社会のお役に立てる、信頼される企業としてあり続けることが、私たちに課せられた使命であるとの考えをもって、事業活動を通じ、皆様のご期待に応えてまいります。

最後になりますが、この「CSR報告書」は、できるだけ、ありのままに、私たちのCSR活動をお伝えするために2006年から発行し、今回の「CSR報告書2013」は8回目の発行となります。

本報告書はCSR活動の報告を通じて、より多くのステークホルダーの皆様からご意見・ご指摘を頂戴して、新たな課題を発見しながら改善に結び付けていくものです。今後もCSR経営のレベル向上と実践に専心してまいります。どうか皆様の忌憚のないご意見をお寄せいただきたいと思います。

2013年6月

安心して暮らせる社会の実現に向け 太陽の恵みを次世代に

地球温暖化問題へ対応すべく、CO₂排出量抑制に対する有効な手段の一つとして、近年、再生可能エネルギーの普及・促進が進められています。

加えて震災による原子力発電所事故の影響から電力供給不足の問題が生じるなど、再生可能エネルギーを利用した発電に対する関心が高まっていますが、その中でも設置場所やメンテナンスが容易な面から、太陽光発電の導入が拡大しています。

JOTグループは、これまで石油製品やLNG・LPG等の高圧ガスの輸送により、国内のエネルギー供給の一端を担ってまいりました。

今回、環境へ配慮しつつ安心して暮らせる社会の実現に向け、微力ながら貢献してまいりたいとの考えから、茨城県神栖市および福島県郡山市において、JOTソーラーステーションを建設し、2013年3月より太陽光発電事業に参入いたしました。

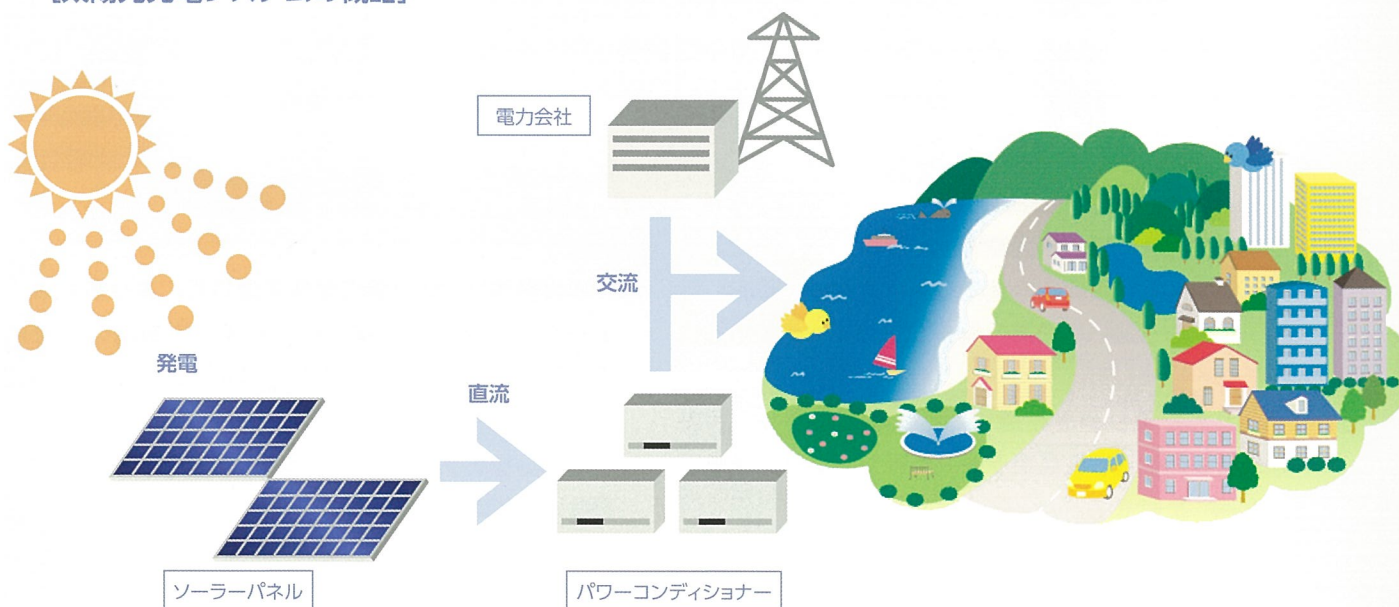
本事業は、「再生可能エネルギー特別措置法」に基づく「再生可能エネルギー全量買取制度」を活用するものです。

茨城県神栖市においては、グループ会社であるエネックス関東支店鹿島営業所隣接地に、福島県郡山市においては、ヤード(鉄道タンク車の留置用線路)を転用して太陽光発電設備を設置しており、保有資産の有効活用を図っています。

発電量(年間)は、合計で2.6メガワットとなり、これは平均的な一般家庭の約780世帯分の電力(年間)をまかなえる計算になります。

JOTグループは、新たに太陽光発電事業も加え、経済社会に不可欠なエネルギー供給という社会的使命を果たす企業グループとして、今後も持続的な社会の発展に貢献してまいります。

[太陽光発電システムの概略]



JOTソーラーステーション神栖

発電出力：2.0メガワット(1,991kW)
 設置場所：茨城県神栖市 2.7万㎡
 エネックス関東支店
 鹿島営業所の隣接地を利用
 送電開始：2013年3月22日
 発電量見込：年間200万kWh
 ※平均的な一般家庭の約600世帯分



<施工前>



<施工後>

JOTソーラーステーション郡山

発電出力：0.6メガワット(591kW)
 設置場所：福島県郡山市 0.8万㎡
 石油等の鉄道タンク車の留置用
 線路を転用
 送電開始：2013年3月21日
 発電量見込：年間60万kWh
 ※平均的な一般家庭の約180世帯分

鉄道線路を基礎とする、ユニークな工法を採用しています。



<施工前のタンク車留置施設>



<施工後>

JOT(日本石油輸送)グループは、社会から必要とされ、社会とともに発展を遂げる企業であるために「社是」、「JOTグループ・ミッション」を“道しるべ”としてステークホルダーの皆様に対して社会的責任を果たしてまいります。

社是
奉仕こそ我が務め
(Service is my business)

●ポイント

社是の意味するところは、

「企業は単に利潤を追求するだけでなく、

業務を通して社会に奉仕するという高い理想を掲げるべきであり、

そうした経営理念に支えられた企業のみが社会での存立の基盤を与えられ、発展を許される」というもので、1952年に制定されました。

JOTグループ・ミッション

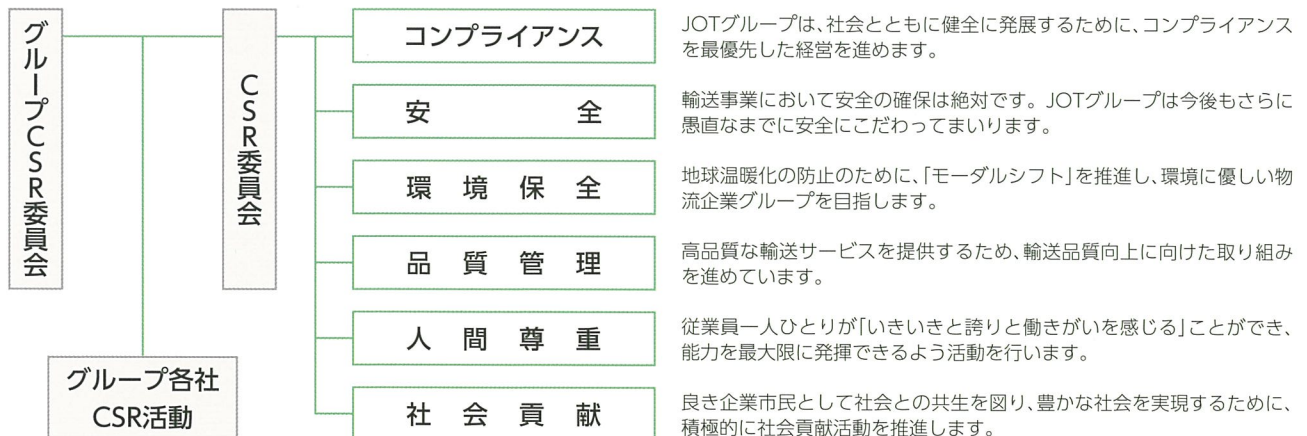
私たちJOTグループは、会社と仕事に誇りを持ち、5つのミッションを成し遂げて社会の発展に寄与いたします。

- ①安全 セーフティ1st・安全を仕事の中心に徹します。
- ②フェア 遵法精神と社会的良識をもったフェアな企業活動を行います。
- ③信頼 最高の商品と輸送サービスを提供し、お客様からの信頼を得ます。
- ④チャレンジ チャレンジ精神で新分野や新商品を開拓し、社会と社業の発展を目指します。
- ⑤ハーモニー 自然環境保護に努め、社会貢献活動を通じて社会との調和を図ります。

6つのテーマを一体的に展開し、CSR全体のレベルアップを目指しています。

日本石油輸送は、ステークホルダーからの信頼をさらに強固なものとするため、CSR委員会を中心に、6つのCSR推進テーマを設定し、一体的に展開しています。

また、グループ会社もCSR活動を実践しており、グループ一体となってCSR活動を推進するためグループCSR委員会を設置しています。





定期的に活動を評価し、PDCAサイクルで取り組みを進めています。

日本石油輸送のCSR活動は、社長を委員長としたCSR委員会で、年度ごとの活動実績とそれに基づいた次年度の計画を報告します。

この計画に基づいて、CSR活動を推進し、半年毎のCSR委員会でそれぞれのテーマの進捗状況を確認しています。2012年度の活動実績と2013年度の計画は4月24日のCSR委員会にて報告されました。

テーマ	2012年度の目標	実施項目	2013年度の目標・計画
コンプライアンス	リスクの低減	個別リスクと共通リスクの検討 分類方法等の見直し 関連法規の再確認	リスクの整理と再評価 グループ全体でのリスク評価 関連法規の再確認
	個人情報の保護対策の取り組み	個人情報保護台帳の更新整備とチェックによる再認識の実施	チェックの継続実施や台帳の更新整備など、認識の徹底と理解の向上に向けた対応を継続実施
	内部通報制度充実の取り組み	社内報・社内イントラにより制度の周知を図る	制度の仕組み等を見直し、より実効性のある仕組みとする
	コンプライアンス意識の向上	コンプライアンスチェックによる意識の確認とフォロー	コンプライアンスチェックや広報により、意識の向上を進める
	インサイダー取引規制の周知徹底などテーマ別取り組み	社内イントラや社内報を用いたインサイダー取引規制の啓発	従前からの全体概要的な情報発信だけでなく、コンプライアンスチェックを踏まえ、認識の弱い部分について重点的に教育・広報活動に取り組む
安全	安全な職場環境づくり	全国安全パトロールの実施 事故調査委員会・安全外部監査の実施 グループ自動車部門における安全性優良事業所の認定取得	安全な職場環境づくりを継続的に推進する為に、全国安全パトロールの実施や、安全監査を実施し、グループ一丸となって取り組む
	安全活動の全国展開と安全意識の共有化	全国安全委員会の開催 グループ統一安全活動の実施	全国安全委員会やグループ安全会議を通じて安全活動の全国展開と安全意識の共有化を図る
	安全教育の実施	安全推進者合同研修会の開催 飲酒運転防止教育の実施	安全推進者合同研修会等を開催し、安全意識の向上を図る
	運輸安全マネジメントの取り組み	グループ自動車部門において、PDCAサイクルに則った継続的改善の実施	運輸安全マネジメント体制の充実を図る
環境保全	ISO14001による環境マネジメントの維持、推進	ISO14001認証継続 マネジメントレビューの開催	ISO14001による環境マネジメントの維持・推進に努める
	モーダルシフト推進による環境負荷の低減	鉄道貨物輸送の推進	モーダルシフトを推進し、環境負荷の低減を目指す
	環境保全活動の推進	チャレンジ25キャンペーンへの参加 エコドライブキャンペーン活動 グリーン経営認証の取得	チャレンジ25キャンペーンに継続参加し、さらなる環境負荷の低減を図る エコドライブキャンペーンをはじめとする環境保全活動をグループ全体で推進する
品質管理	【品質管理委員会】 当社と異なる輸送手段や輸送容器の調査・研究	【品質管理委員会】 資料館、物流展示会の見学および企業視察。消費財、製缶メーカーの品質管理の調査・研究	【品質管理委員会】 当社取り扱い輸送品目、又、将来取り扱う可能性のある輸送品目の輸送手段・輸送容器の調査・研究
	【ISO9001】 元請輸送におけるトラブルの撲滅と輸送容器のメンテナンス強化	【ISO9001】 委託業者へのヒアリング、輸送容器の定期検査およびリファビッシュ計画の完達	【ISO9001】 元請輸送におけるトラブルの撲滅と輸送容器のメンテナンス強化
人間尊重	人権啓発の推進	人権に関する意識実態調査などによるパワハラ・セクハラ防止と障がい者雇用の取り組み	パワハラ防止を重点課題とし、人権意識高揚のための取り組みを継続する
	ワークライフバランス実現	健康増進への取り組みと、有給休暇取得促進・定時退社推進日の実施などによる時間外労働の削減等	健康増進に向けた取り組み、ワークライフバランスの観点から時間外削減等、効率的な業務の推進を継続する
	従業員のキャリア形成と能力支援	次世代育成のためのプログラムの実施とグループベースでの人事交流と研修の実施	継続して実施する
社会貢献	企業としての支援の実施	障がい者支援として盲導犬育成の支援と次世代育成支援として黄色い帽子・傘の寄贈	継続して援助を必要とする人々や団体へ継続的な支援を行うことを念頭に置き、活動の充実を図る 体験型ボランティア活動も取り入れ、障がい者への理解を深める
	ボランティア活動	収集ボランティア、区民祭りや事務所近隣の清掃活動実施など地域との交流を実施	誰でも気軽にできるボランティアとして活動を継続する
	環境保全支援	地球温暖化防止に向けた支援として、神奈川県主催の「森林再生パートナー制度」に参加 森林整備ボランティアを実施	寄付だけでなく、従業員の参加ができる社会貢献活動を重点的に実施

従業員にとって、より身近なコンプライアンス活動を目指すための啓発活動と仕組みづくりを行っています。

CSR経営を推進していくうえで最も基本的な要件は法令や社会規範を遵守することです。

JOTグループでは、企業行動の基本方針を表した「社是」、[JOTグループ・ミッション]を制定し、すべての役員・従業員がこれを理解し、確かな倫理観に基づく行動が取れるように、名刺サイズのカードを携帯しています。



ミッションカード

01 リスクマネジメント

日本石油輸送では、当社が抱える多種多様なリスクを総合的に把握し、事業運営に重大な危機が発生した際のリスクの顕在化の予防と、万一の緊急事態が発生した際も被害を最小限に抑え、迅速に事業を継続させることを目的にリスクマネジメントに取り組んでいます。

2012年度は、リスク発生時の使いやすさ、実効性の向上を目的に、リスク分類の簡素化、リスク影響度・発生頻度の見直しを実施しました。

また、事業に関連する法令をリストアップした「関連法規一覧表」についても更新を行いました。

02 個人情報の保護

個人情報保護法に則った規程の整備や、日本石油輸送が保有する個人情報を「個人情報保護台帳」で管理し、定期的に更新する仕組みを運用しています。

03 コンプライアンス教育

コンプライアンス活動を推進するためには、従業員一人ひとりの意識の向上を図らなければなりません。そのために日本石油輸送では各種研修時に各層の実態に即した教育を継続して実施しています。また顧問弁護士による講演会を実施するなど、意識喚起を図っています。



コンプライアンス講演会

04 内部通報(ヘルプライン)への取り組み

JOTグループ各社では、企業活動に伴うリスクの早期発見と未然防止の観点から「内部通報制度」を定め、従業員に向けて、社内報やイントラネットなどで告知しています。

通報された内容については、事実関係を調査の上、適切に対応し、通報者に対して不利益な取り扱いを禁止しています。また、「内部通報制度」の実効性を高めるため、受付窓口の改善の検討も進めています。

05 コンプライアンスチェック

毎年、従業員を対象に「コンプライアンスチェック」を実施し、コンプライアンス意識の定着度を確認し、効果的な活動の展開に役立てています。

今後もコンプライアンス活動の着実な実施と意識を深めるよう継続して実施します。

お客様に信頼される高品質な輸送サービスのご提供を目指します。

01 品質管理委員会

2012年度は、活動テーマを「当社と異なる輸送手段や輸送容器」の調査・研究とし、物流に関連する資料館、物流展示会の見学および企業視察の実施により、他輸送サービスの情報収集、他社の品質管理について理解を深めました。

参加した委員の声

資料館の見学では、戦時中の竹製コンテナから発想を得て、今日の折りたたみコンテナが誕生したことを学び、先人の知恵と努力に感銘を受けました。(化成品部)

物流展示会の見学では、日頃の業務が輸送業務と直接の関係が薄いこともあり、新鮮で勉強になりました。物流にも、輸送システム・拠点・包装など様々な切り口があるのが驚きでした。(人事部)

消費財メーカーの視察では、商品の定期的なサンプリング、カメラやセンサーによる徹底した品質管理に企業としての真摯な姿勢を拝見することができ、非常に有意義でした。(技術部)

製缶メーカーの視察では、作業員がすべてのペール缶に対して均一に最終チェックを行っており、品質管理において従業員が高い意識を持つことの重要性を感じました。(事業開発室)



資料館の見学



製缶メーカーの視察

02 品質マネジメントシステム/ISO9001に基づく高品質なサービスの提供

日本石油輸送は、化成品コンテナのリースおよびそれに関わる様々な輸送サービスを提供する化成品部門において、品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得しています。

1 品質方針

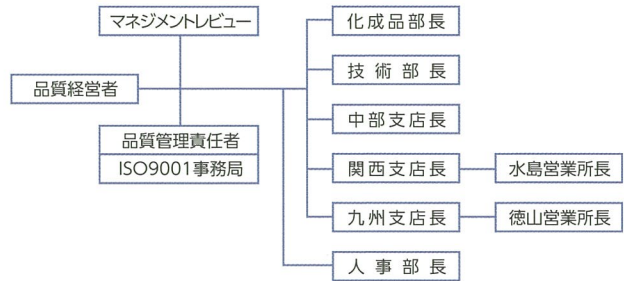
- 1) 安全・安定輸送を通じて社会に貢献する
- 2) お客様に信頼される輸送商品をご提供する
- 3) ベストミックスな輸送システムをご提案する

※2013年4月1日改定

2 2012年度品質方針

- 1) 元請輸送におけるトラブル撲滅
- 2) 輸送容器のメンテナンス強化

3 組織図



03 品質向上への取り組み

日本石油輸送の石油部門では年1回の「タンク車自主点検」により、タンク車のバルブ・内部状態・外装・パッキン等消耗品のメンテナンスを実施しています。LNG部門では高圧ガス保安法に基づく容器再検査をグループ企業内でも行っています。化成品部門では、新造から一定期間以上が経過し、外観の劣化が著しいコンテナはリファビッシュ（リペア）を行い性能を維持しています。また、コンテナ部門では、お客様により綺麗なコンテナを使用していただくため、新たに特殊洗浄剤を使用した洗浄を行い、「コンテナ美化」に積極的に取り組んでいます。

各部門とも容器メンテナンスの徹底を中心に、品質の維持・向上に取り組んでいます。



タンク車の自主点検



LNGコンテナの容器再検査



化成品コンテナのリファビッシュ



ウィングコンテナの外装洗浄



日本石油輸送の安全活動基本方針

スローガン

「勝ち取ろう SAFETY 1stで 顧客の信頼」

基本方針

- ① 輸送品質を高めお客様のブランド向上・信頼に応える
- ② 法令と基本作業を守る

目標

- ① 連絡車事故ゼロ
- ② 労働災害ゼロ
- ③ 協力会社事故ゼロ



01 全国安全パトロール

日本石油輸送は、安全な輸送を行うために、まず職場の安全を確保することが重要と考えています。社内の安全活動として行われている「全国安全パトロール」では、チェックの共有化を図っており、約50項目にもものぼる項目を設けたチェックリストを用い、その一つひとつを確認した上で、徹底的に話し合い、労働災害や事務ミスの防止に努めています。

2012年度全国安全パトロール実施場所

- 全支店・事業所および五井・隅田川・大井・根岸営業所
(計11ヶ所:7月～11月実施)



02 全国安全委員会の開催

日本石油輸送は安全活動を徹底させるため、安全委員をはじめ各支店・事業所の安全推進者が集まり、安全確保に向けた取り組みを強化させるべく、「全国安全委員会」を実施し、安全重視の企業風土を確立するため、活動しています。



03 協力会社訪問ヒアリング

日本石油輸送の安全に対する考え方に理解・協力をいただくため、「協力会社訪問ヒアリング」を実施しています。2011年度よりスタートし、2年目を迎えた2012年度については24社実施することができ、今後も協力会社の方々に対し、日本石油輸送の安全活動をご理解、ご協力いただけるよう積極的に推進してまいります。



グループ会社の安全活動基本方針

スローガン

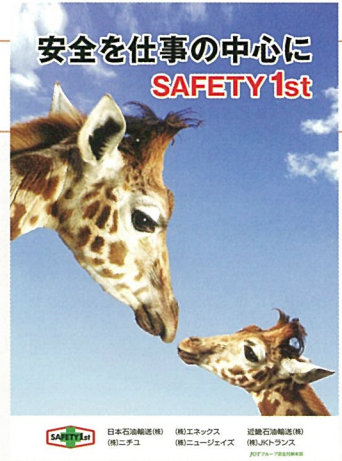
「安全を仕事の中心に SAFETY 1st」

基本方針

- ① 輸送品質を高めお客様のブランド向上・信頼に応える
- ② 「運輸安全マネジメント」体制の充実を図る
- ③ 法令と基本作業を守る
- ④ 隠蔽行為を防止する

目標

- ① 混油事故ゼロ ② 追突事故ゼロ ③ 誤配送事故ゼロ



01 安全外部監査の実施

グループ安全対策本部では、決められたルール・手順の徹底を図り、事故を防止すべく、実務チェックに主体をおいた



【荷卸訓練立会い】

「安全外部監査」を実施し、グループ各社の全車庫を対象に安全確実な作業が忠実に実践されていることを確認しています。

02 安全推進者合同研修会

JOTグループ各社の安全活動の要を担う安全推進者として、重要な役割を再認識した上でレベルアップを図り、グループの安全意識の更なる徹底を目指しています。



運行管理者安全教育の実施【エネックス】

エネックスでは、安全性の向上を目指し、運行管理者（事務職・乗務職 70名程度）を対象に、エネックスの安全を理解・浸透させるべく、安全に特化した教育を実施しています。



この教育では特に『原点帰帰』に重きを置き、初心に戻り“なぜ必要なのか？”、“何によって決まっているか？”を今一度、思い起こさせるとともに、“今、私たちは何をすべきか？”という意識を根付かせることを目的としています。

運行の要である運行管理者が「運輸安全マネジメント」に則り、エネックスの安全方針を着実に実践することでスキルアップを図っています。

安全性を最大限に高め、個々が基本に忠実な業務を徹底することで、更なる安全運行に徹してまいります。

車両点検強化月間【JKトランス】

JKトランスでは、安全強化月間にあたる7月と11月の年2回、車両点検を強化しています。



車両の不具合がないか日々点検していますが、重要な教育の一環として日常点検技術の向上を図るものです。

「日常点検マニュアル」を各営業所に配布すると共に、帰庫後整備管理者と共にこのマニュアルに沿って点検を行うことによって、車両トラブルの早期発見に努めています。

車両故障などによりお客様にご迷惑をおかけすることなく、安全安心な輸送サービスを提供することを目指し、日夜努力しています。

グループ安全標語

「なれた作業も危険予知 五感で確認 安全作業」



なれた作業でも自分が持っているすべての感覚を使って危険予知をし、安全作業に取り組まなければならないと考えて作りました。

【2012年度グループ安全標語】

●考案者 JKトランス よしざき 吉嵩良朗

地球環境に配慮した経営を、「モーダルシフト」で推進しています。

01 ISO14001による環境マネジメント

日本石油輸送は環境基本理念、環境基本方針のもと「ISO14001マネジメントシステム」を活用した事業や経営を推進しています。

環境基本理念

人類が自然環境と共存していくために地球環境の保全是世界共通のテーマであり、環境に配慮しない企業は存続しえないとの認識に立ち、あらゆる活動を通じて、自然との調和に努め、環境負荷の低減を図り、継続的に環境保全活動を推進する。

基本環境方針

- ① 環境関連法規の遵守
- ② 自然環境保全
- ③ 資源・エネルギーの効率的利用
- ④ 循環型経済社会の実現
- ⑤ 環境マネジメントシステムの継続的改善
- ⑥ 環境方針の周知と公表

02 環境保全活動の推進体制

日本石油輸送の環境マネジメント活動は、社長、常勤役員および各部署の責任者が出席する「マネジメントレビュー」で審議します。また、日常での具体的な推進活動は「ISO14001推進委員会」と事務局が中心となり、PDCAサイクルに沿った管理・運営を実施しています。

ISO14001取得事業所

- 本社
- 関東支店
- メンテナンスセンター



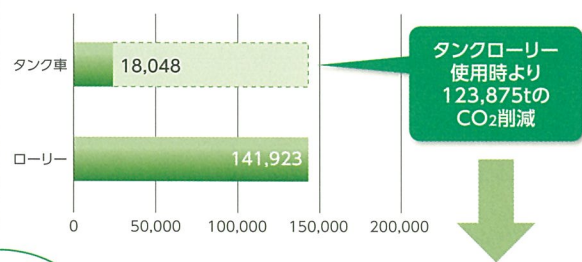
日本石油輸送は鉄道貨物輸送を通じて皆様のくらしと地球環境問題に貢献します

03 環境に優しい鉄道輸送

日本石油輸送は会社創立以来、「環境に優しい鉄道」を輸送手段とし、生活や産業を支えるエネルギーや製品を輸送しています。2012年度に当社タンク車が輸送したガソリン、灯油等の石油類は約576万KLです。これは、一般的なタンクローリー（20KL）の29万台分の輸送量に匹敵し、タンクローリー使用時と比較しておよそ12万t-CO₂/トンキロのCO₂を削減できました。

CO₂排出量比較: 2012年度数量ベース

(単位:t)



約24,500戸の家庭が1年間に排出するCO₂量に匹敵します。

※1世帯当り5.06t/年にて算出
(出典: 国立環境研究所ウェブサイト)

04 環境に配慮した輸送容器の提供

日本石油輸送は輸送容器の環境配慮も積極的に進めています。2012年度は庫内の素材にアルミを使用した軽量タイプの冷蔵コンテナ（軽量UR）を開発しました。通常のURコンテナと比べて120kg（ないし70kg）軽量化することにより輸送燃費向上・CO₂排出削減に寄与するなど、環境に配慮した輸送容器の開発に努めています。



日本石油輸送は環境仕様の輸送容器で日本の輸送を支えます



05 チャレンジ25キャンペーンへの参加

日本石油輸送は「チャレンジ25キャンペーン」へ参加し、地球温暖化防止のために活動しています。夏場のクールビズをはじめとして、日常生活から環境保全活動を実施しています。

未来が変わる。日本が変わる。
日本石油輸送株式会社



日本石油輸送はチャレンジ25キャンペーンに参加しています。

グループの環境保全活動

自動車輸送には化石燃料が不可欠なため、環境負荷は決して低くありません。鉄道輸送部門との連携だけに留まらない積極的な環境保全活動を行っています。

01 「グリーン経営認証」を取得

JOTグループの自動車部門全体で29事業所がグリーン経営認証を取得しています。(2012年度末時点)
※「グリーン経営認証」は、交通エコロジー・モビリティ財団が、国土交通省、全日本トラック協会の協力を得て、トラック事業者が環境保全活動を自主的に進めていくためのマニュアルを作成し、グリーン経営の普及を推進する制度です。

02 「エコドライブキャンペーン」の実施

グループ統一の活動の一つとして、毎年「エコドライブキャンペーン」を実施し、アイドリングストップや急発進・急停止の抑制など、環境に配慮した運転を通じ、燃費の向上に努めました。グループ各社では外部講師を招聘して講習会を開催するなどエコドライブ技術の習得に努めました。



JKトランスでのエコドライブ講習会の模様

仕事も全力。人生も充実。社員の働きがいと健康や幸せを本気で考える企業でありたいと願っています。

01 「個の尊重」を主題とした人権啓発の推進

人権啓発の推進にあたって、2012年度は人権全般への意識向上、ハラスメントのない職場環境づくりをテーマとして取り組みました。継続的に「人権に関する意識・実態調査」を実施し、ビデオ視聴によりコミュニケーションの重要性を認識し、障がい者雇用にも努め、雇用率もクリアしています。働きやすい職場環境の実現を目指しました。



人権啓発ビデオ視聴

02 こころと身体の充実と健康管理

従業員の健康管理に向けた取り組みとして、健康診断の完全実施により生活習慣病を予防し、健康を増進する「健康チャレンジキャンペーン」を継続実施、意識付けを行いました。またこころの健康のためにメンタルヘルスカウンセリングも設置しています。

03 ワークライフバランスに向けて

年間総労働時間1,800時間を目標として、時間外労働の削減、有給休暇取得促進を進めました。時間外労働の削減に向けて定時退社推進日を継続し、また有給休暇取得促進に向けても、平均有給休暇取得率65%を目標に掲げ、計画取得・取得できる環境づくりに取り組んでいます。

また、仕事と生活の両立支援として、2008年4月より育児短時間勤務制度を導入し、育児休職から復帰後に、1日最大2時間短縮する制度を実施しています。毎年、復帰した従業員が本制度を利用し、ワークライフバランスに向けた取り組みを着実に進めています。

育児休職・短時間勤務制度利用者の声

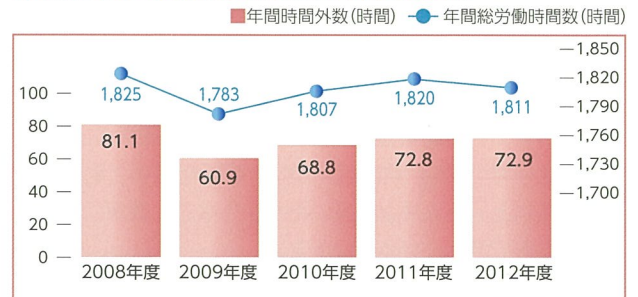
総務部 田中 華絵

2011年8月に次男を出産し、2013年4月に職場復帰しました。その間2度目の産前産後休暇、育児休暇をいただいたことを本当に感謝しています。育児休職中は保育園行事や地域の子育て行事に参加するなど有意義な時間を過ごすことができました。また復帰後は育児短時間勤務制度を利用し、仕事と育児の両立ができるよう努力しています。まだまだ働く母にとっては大変なことも多い現状もありますが、会社の制度と支えてくれる上司や仲間のおかげで楽しく働くことができています。

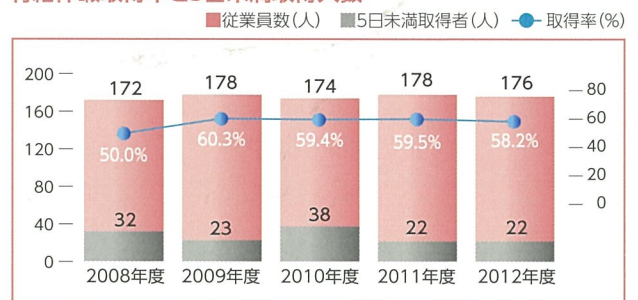


育児休職・短時間勤務制度利用者

1人当たりの年間総労働時間数と年間時間外数



有給休暇取得率と5日未満取得人数



04 人事諸制度の整備

社宅制度を見直し、入居者の生活をサポートする新社宅制度に2013年度中に完全移行します。

05 人材育成プログラムの充実

次代を担う若手・中堅社員の早期育成、かつ、従業員全体の専門能力を高めるために、OJT、OFF-JT、自己啓発支援を有機的に組み合わせた教育プログラムを実施しています。

米国留学も新しい大学への派遣となり、また業務拡大に向けて通関士の資格取得にも取り組んでいます。

■ 集成型研修

	2010年度	2011年度	2012年度
マネジメント研修	3名	3名	3名
管理者研修	-	11名	11名
中堅社員スキルアップ研修	10名	-	12名
営業力向上研修	-	11名	12名
新入社員研修	6名	4名	3名

■ 自己啓発(通信教育受講者数)

	2010年度	2011年度	2012年度
通信教育受講者数	89名	81名	78名

■ 主な資格取得

	2012年度取得者数	累計取得者数
高圧ガス製造保安責任者	3名	49名
危険物取扱者(乙種4類)	5名	162名
運行管理者(一般貨物自動車運送事業)	2名	67名
防火管理者	4名	56名
酸素欠乏危険作業主任者	3名	70名

社会とともに生きる企業グループとして、 日本石油輸送らしさを生かした社会貢献活動を進めます。

日本石油輸送では、社会と共生することができる企業グループとして、部門横断的なメンバーで構成される「社会貢献委員会」での議論・検討のもと、全員が主体性をもって、“日本石油輸送らしさ”を生かすことができる社会貢献活動に取り組んでいます。

01 障がいを持つ方への支援活動

JOTグループは、輸送事業に携わる企業グループとして、目の不自由な方が一人でも多く健常者と同様に安全に道路を

利用していただきたいとの願いをこめて、盲導犬の育成・訓練・歩行指導を行っている公益社団法人アイメイト協会と公益社団法人日本盲導犬協会への支援を継続して行っています。2012年度は従業員が両協会を訪問し、訓練士の方から盲導犬についての概要を学び、また実際に盲導犬を利用されているユーザーの方からの生の声を聞き、アイマスクを着用して白杖や盲導犬による歩行を実際に体験するなど、視覚障がいを持つ方に対する理解を深めました。



日本盲導犬協会への贈呈式



アイメイト協会での体験歩行

02 次代を担う子どもたちへの育成支援

わが国の将来を担う次世代の育成のために、日本石油輸送では学童を交通事故から守る黄色い帽子を寄贈する活動を25年以上継続して取り組んでいます。

2012年度も黄色い帽子や傘を本社、各支店近隣の小学校計4校、のべ270名の子どもたちへ寄贈しました。



福岡市立箱崎東小学校への黄色い傘の贈呈

03 環境保全活動

環境に優しい日本石油輸送らしい社会貢献活動として、神奈川県が取り組んでいる「かながわ水源の森林づくり」の「森林再生パートナー制度」に参加しています。神奈川県清川村宮ヶ瀬には「日本石油輸送の森」があり、森林整備が進められています。



間伐作業の様様

2012年度は森林の豊かな恵みを次世代に引き継ぐ重要性について理解を深めるため、グループ従業員やその家族によるボランティア活動を行いました。



日本石油輸送の森（神奈川県）

04 収集ボランティア

地域の小学校やNPO法人等の取り組みへの協力として、収集ボランティアを継続して行っています。

ペットボトルキャップ：8,000個（ポリオワクチン10本分）、
プルトップ：12.9kg、使用済切手：2.7kg、
ベルマーク：4,385.8点

05 地域に根ざした社会貢献活動

本社（東京都品川区）を中心に地域に根ざした社会貢献活動を行っています。各支店、グループ各社でも事務所近隣地域の道路清掃活動などを継続して行っています。

- 品川区立大崎中学校で開催された「品川区民まつり」に14名の社員が参加し、地域の方々と共に食品の販売をするなど、交流を深めました。

参加者の声

関東支店 澤田 修

日頃お世話になっている地域の方々と活動を通じて触れ合うことができ、とてもいい経験になりました。また、会社の皆と共に作業を行う事で、親交が深まったと感じました。次回も参加しようと思いましたが、多くの方々に参加を呼びかけたいと思います。



- 毎月第1、第3水曜日の昼休みに本社近隣の目黒川沿い歩道の清掃活動を行っています。2012年度は計18回、のべ221名の従業員が参加し、美化に努めました。

参加者の声

化成部品 今野 千恵

ボランティアと言うとハードルが高く感じますが、周囲の方々との会話を楽しみながら、気軽に参加しています。清掃活動の後は心身ともにリフレッシュしています。地域の方々に気持ち良く歩道を利用していただけるよう、今後とも清掃活動に参加していきたいです。



JOT

日本石油輸送株式会社

お問い合わせ先

日本石油輸送株式会社 CSR推進室

〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11番1号

(ゲートシティ大崎ウエストタワー16階)

TEL.03-5496-7671 FAX.03-5496-7856

<http://www.jot.co.jp/>



この冊子は環境保全のためFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。